

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	東京地下鉄株式会社
---------	-----------

整備方針	
全期間	・ホームドア全駅整備完了 ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の完了
2021～2025年度	・ホームドア全駅整備完了 （一部の大規模改良工事実施中の駅を除く） ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の推進
2026～2031年度	・ホームドア全駅整備完了 ・エレベーター乗換及び複数ルート整備、エスカレーター整備、バリアフリートイレ整備の推進 ・各線各駅のホームと車両の段差・隙間縮小の完了

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	(※1)	—
年間徴収額 (百万円)	10,394 (※2)		5,535	—
料金徴収 対象駅	全180駅			
備考	(注) 設定額は税込額 ※ 1 通勤定期券、全線定期券への設定料金 1 か月： 370円、3 か月：1,050円または1,060円、6 か月：1,990円または2,000円 ※ 2 上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券からの徴収額を含む。 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

年間徴収額	15,929 百万円
徴収期間	6.4 年間 (2023.3 ～ 2029.8) ※2029年9月以降の継続について検討予定
総徴収額	101,495 百万円
総整備費	101,627 百万円
	2021～2025年度の計画： 47,995 百万円
	2026～2031年度の計画： 53,632 百万円 ※2032年度以降の継続について検討予定

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	39 (34) 駅※1 81 (71) 番線 ※1	18,452 百万円※2
エレベーター	6 駅 10 基	2,828 百万円
エスカレーター	2 駅 11 基	437 百万円
スロープ	1 駅 2 ヶ所	7 百万円
内方線付点状ブロック	1 駅 1 番線	4 百万円
ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備	50 駅 107 番線	661 百万円
バリアフリースイール	4 駅 5 ヶ所	227 百万円
車両のフリースペース	70 両	84 百万円
その他	168 駅	233 百万円
備考	・ホームドア：新設（21(34)駅45(71)番線）及び延伸（18駅36番線） ※1 カッコ内はホームドア整備の残工事に鉄道駅バリアフリー料金を活用する駅数。 ※2 ホームドア支障物センサ整備費を含む。 ・ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備： 嵩上げ（5駅12番線）、くし状ゴム（50駅107番線）、可動ステップ（4駅7番線） ・その他：視覚障害者誘導用ブロック、手すり、幅広自動改札、自動ドア、案内サイン、 券売機（フリースペース）、運行情報提供設備（駅情報配信ディスプレイ）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	41 駅 80 番線	3,424 百万円
エスカレーター	19 駅 90 基	4,870 百万円
案内サイン	180 駅	607 百万円
ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備	13 駅 18 番線	237 百万円
その他	3 駅	138 百万円
備考	・ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備：可動ステップ ・その他：運行情報提供設備（自動旅客案内装置）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
半蔵門線	19 編成 190 両	3,172 百万円
ホームドア整備等との一体性について	半蔵門線ホームドアの早期整備等を実現するため、ホームドアに対応したATO装置等搭載かつ、車両の床面高さを低くした車両等に更新する。（整備費はホームドア整備・段差解消に資する装置のみ対象）	
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）		11,596 百万円
収受システム改修費		40 百万円
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		978 百万円
備考	・維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（自動旅客案内装置）等	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	47,995 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		45	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	5	駅

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2032.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	1 駅 3 番線	2,036 百万円※
エレベーター	3 駅 3 基	964 百万円
エスカレーター	2 駅 10 基	373 百万円
内方線付点状ブロック	1 駅 1 番線	4 百万円
ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備	51 駅 107 番線	826 百万円
バリアフリースイール	1 駅 1 ヶ所	45 百万円
車両のフリースペース	198 両	324 百万円
その他	90 駅	730 百万円
備考	※ ホームドア支障物センサ整備費を含む。 ・ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備： 高上げ（3駅6番線）、くし状ゴム（51駅107番線）、可動ステップ（8駅10番線） ・その他：視覚障害者誘導用ブロック、手すり、自動ドア、券売機（ファットスペース）、 運行情報提供設備（駅情報配信ディスプレイ）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	136 駅 270 番線	21,245 百万円
エレベーター	16 駅 21 基	525 百万円
エスカレーター	29 駅 111 基	6,385 百万円
案内サイン	180 駅	1,388 百万円
ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備	24 駅 31 番線	519 百万円
その他	45 駅	1,514 百万円
備考	・ホームと車両の段差・隙間縮小に資する設備：可動ステップ ・その他：運行情報提供設備（自動旅客案内装置）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）		16,754 百万円
収受システム改修費		－ 百万円 (※)
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		－ 百万円 (※)
備考	・維持管理費：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（自動旅客案内装置）等 ※ 2032年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用について、本様式には計上していない。	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	53,632 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数		3	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅